

表現の自由「絶滅危機」

2記者に平和賞背景語る

強まる報道弾圧、警告鐘

ノーベル賞委員長

【オスロ共同＝伊藤慎司】ノルウェーのノーベル賞委員会のレイスマンデルセン委員長は8日、ロシアとフィリピンで強権政治と対峙するジャーナリスト2人に平和賞の授与を決定したのは、世界各地で報道機関への弾圧が強まり「表現の自由は今や絶滅危機種となった」危機感があるからだと表明した。報道は「民主主義発展の土台」だと強調した。オスロで共同通信と単独会見した。

8日の発表で今年の平和賞受賞が決まったのは、ロシアでプーチン政権に勝せざる調査報道を続ける独立系新聞「ノーバヤ・ガゼータ」のドミトリー・ムラトフ編集長と、フィリピンのドゥテルテ政権に批判的なニュースサイト「ラップラー」を率いる女性ジャーナリストト、マリア・レッサ氏。委員長は「社会の平和的発展に不可欠な価値をこの

ように守るかという点で、世界的な基準を打ち立てた」と評価。誰も真実を伝えなければ独裁者の「勝利」を許してしまうと指摘した上で「困難な状況下で事実を記録し、伝えてきた」と2人の取り組みをたたえた。自らに批判的なメディアを敵視したランプ前米大統領にも普及。独裁的な他の指導者らと同様に記者を嫌う理由について「自由で独立した報道機関は、権力者が人々に伝えたい『事実』とは異なるメッセージを発信するからだ」と述べた。



取材に応じるノーベル賞委員会のレイスマンデルセン委員長。8日、オスロ

世界各地で報道機関への弾圧が強まり、表現の自由は絶滅危機種に報道は民主主義の発展の土台であり重要受賞が決まった2人は強権政治の下でも事実を記録し伝えてきた独裁的指導者が記者を嫌うのは、自らが伝えたい「事実」と異なるメッセージを発信するからだ

委員長は、報道や表現の自由が「極めて重要だ」と訴える一方で「報道機関が常に正しいわけではない」と指摘。「真実や、公開の場での議論」が良質な社会にとって不可欠だと強調した。また新型コロナウイルス流行後にソーシャルメディアで偽情報が増え「事実

に基いた報道の重要性を強調した。この際、報道分野をめぐり一因になったと説明した。